

【R 1 8】 会話形式ノベル

1 9 8 5 年

**『今日は身体検査の日、
女子社員の出社から検査が終わるまでを再現』**

～西門美桜のケース～

〔登場人物の会話と心の声〕

作：七条右京

1985年当時の身体検査は、羞恥心など考慮されておらず、男子も女子も裸であるのが基本であり、それがあたり前であった。

女子は、それが慣例なので、恥ずかしいのを我慢して服を脱いで裸になった。



1985年6月某日、とある会社の身体検査が行なわれた。

1人の女子社員・西門美桜の入社から身体検査が終わる迄を時間の経過と共に、同僚たちとの会話と心の声、検査中の会話と心の声を再現。



○ 8時30分頃

美桜が出社し、女子ロッカールームで、私服か

ら制服に着替えている時の同僚とのシーン。

同僚の女子社員：

「今日、やだね、身体検査」

「裸なって、おっぱい見せるの恥ずかしいね」

「ほんと、女子は損よね」

美桜：

「そうね」

「でもしょうがないじゃない」

「検査は、裸になるって決まってるんだから」

同僚の女子社員：

「美桜って、下着、気合入ってるんじゃない

の？」

美桜：

「うん、着替えの時、下着見られちゃうから、

一応ね」

「それに私、去年、内科検診でスカート脱がされちゃって、パンツ見られたのよ、だから」

同僚の女子社員：

「えっ、なに？ スカート脱がされたって」

「上だけ裸になればいいんじゃないの？」

美桜：

「そうなんだけど、私、ちょっと便秘気味だったのね」

「それを、お医者さんに話したら、ちょっと診てみましょうって事になって、スカートを脱がされてベッドに横になって、下腹部を触診されたの」

「それも、パンストとパンツを毛のところまで

下げられて、すごく恥ずかしかったわよ」

同僚の女子社員：

「へえ～、そんな事があったんだ」

「やだ、やだ」

「余計な事、言わない様にしないと」

「それじゃあ、お先」



○ 8 時 4 5 分就業開始

課の朝の朝礼が行なわれている。

美桜・心の声：

『課長、女子は今日身体検査があるから必ず受ける様に言ってるわ』

『9時からだから、朝一で行った方がいいわよね』

『いやな事は、さっさと早く済ませなきゃ』

『でも、お医者さんって、やっぱり男なのよね』

『それにレントゲンも男の人よね』

『検査の為とは言え、男の人に裸見られるの、やだなあ、恥ずかしいなあ』



○ 8時56分

自席にて、隣の同僚との会話。

隣の席の同僚の女子社員：

「ねえ、美桜」

「身体検査、どうするの？」

美桜：

「私、もう行こうと思ってるわ」

「どうせ急ぎの仕事もないし、いやな事はさっさと終わらせてしまいたいの」

隣の席の同僚の女子社員：

「そうね、私もそうしようかしら」

「それじゃあ、一緒に行こうよ」

美桜：

「うん、分かったわ」

「それじゃあ、行きましょう」

「課長、身体検査、行ってきます」

隣の席の同僚の女子社員：

「私もです」



○ 8 時 5 9 分

身体検査の会場である医務室に移動中の同僚と